

### 第3学年国語科学習指導案

日 時 平成27年10月 6日 (火) 5校時  
児 童 男子 9名 女子13名 計22名  
指導者 小野寺 稚佳子

- 1 単元名 筆者のせつめいのしかたを考え、「へんしん食べ物ブック」を作ろう  
教材名 「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」(光村図書)  
補助教材 「こどものずかんMio たべもの」  
「すがたをかえる米・麦」(幕内秀夫・神みよ子監修)  
「フレーベル館の図鑑ナチュラ たべもの」(無藤隆総監修・三浦理代監修)  
「いわし おいしくたべる知恵」(奥村彪生 作) 他

#### 【付きたい力】

- ◎ 中心となる語や文をとらえ、結論とその理由や根拠、事実とそれに基づく意見との関係など、段落相互の関係を考え、読む力(読むことイ)
- ◎ 書く目的によって、必要となる事項と観点を理解し、適切な事例を挙げて説明する文章を書く力(書くことウ)

#### 【単元を貫く言語活動】

身近な食べ物に関する「へんしん食べ物ブック」を作る。

#### 2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「読むこと」の言語活動例「イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること」、「書くこと」の言語活動例「ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと」を具体化し、変身した食べ物を分かりやすく説明する「へんしん食べ物ブック」を作る活動を位置付けた。「へんしん食べ物ブック」は、個人が書いた報告文を1冊の本にまとめたものである。それぞれが筆者になることで、教材文の筆者はどのように「内容・題材」を選び、それにふさわしい「形式・構成」を用いたのかを必然的にとらえて読むことになる。そこで読み取ったことを生かし、事例の挙げ方、順序、写真などの資料と関係付けて報告文を書いていく。したがって、本単元のねらいである「中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解する」に、事実と意見との関係を考えながら迫ることができると考えた。

#### 3 単元について

##### (1) 児童について

児童は、説明的文章単元において、「はじめ」「中」「おわり」でとらえる見方について繰り返し学んできている。1学期単元の「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」では、「問い」と「答え」をとらえて、まとまりに気をつけて読むことと、「中」の部分で事例を列挙した構成について学習し、ある程度段落ごとに内容のまとまりをもたせて段落相互の関係を考えながら読めるよう

になってきた。また、説明のしかたを考えるとという点では、二年下巻「しかけカードの作り方」で、写真や絵を提示することや、「まず」「次に」などの言葉を使うなどの工夫を学んでいる。

しかし、これを生かして表現する児童は少なく、「はじめ」「中」「おわり」の構成を意識したり、接続語を積極的に活用しながら作文を書いたりしようとする姿はあまり見られない。また、自分の書きたいことを、相手に分かりやすく伝えるための工夫が足りない児童も見られる。

そこで、本単元は、各段落の中心になる文を見極め、そこから段落相互の関係をしっかりととらえられるようにしたい。そして、読むことでとらえた説明の工夫をポイントとしながら、自分の考えを分かりやすく伝える方法について考えさせたい。

## (2) 単元構成及び教材について

### ① 教材について

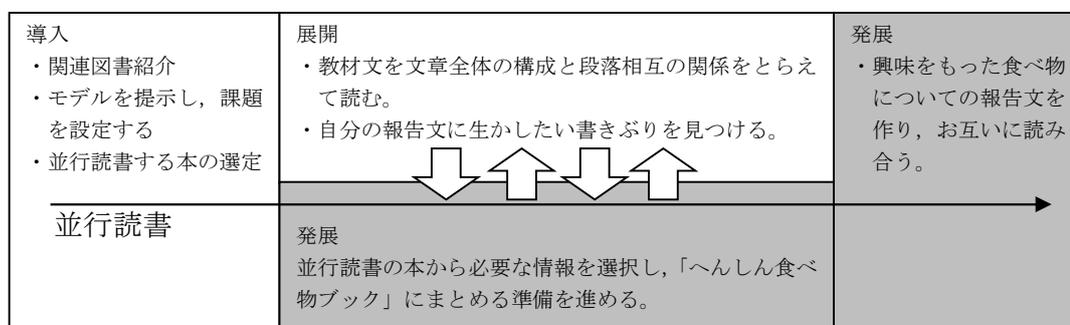
第1教材「すがたをかえる大豆」は、児童にとってなじみのある大豆やその加工食品について書かれた文章である。ただ、大豆の加工食品は、見ただけでは原料が大豆とは分からないものも多く、その意味では児童が意外性をもって意欲的に読み進めることのできる内容である。文章構成は、はじめに説明する対象物を提示し、それについて説明を施すという解説型になっている。段落構成や中心文、キーワードが明確であるとともに、接続語が多く使われているため、読み取りやすい教材といえる。

第2教材「食べ物のひみつを教えます」は、読みの学習を通して身に付けた力をもとに、本教材で学習する本を使った調べ方を活用して、身近な食べ物にかかわる多様な材料を集めて文章にまとめ、お互いに調べたことを交流する教材である。教材文から身近な食べ物について興味をもち、調べることを焦点化させ、図書資料を手がかりに情報を集めて、整理して文章にまとめていく。この一連の学習により、課題のもち方、情報の集め方を知ることができるようになると考える。

また、食に関する指導という視点を取り入れるのにふさわしい教材でもある。栄養、自然の仕組み、調理者、生産者の願い、他地域、外国とのつながり、自分の食生活の見直しなどを、この学習を通して児童に意識させるようにしたい。

以上のことから、これらの教材は本単元のねらいに迫るために適した教材と考える。

### ② 単元構成について



第一次では、すがたをかえた食品について紹介し、児童の興味や関心を高め、教師自作の報告文を紹介する。モデルを示すことで、並行読書をしながらすがたをかえる食べ物に

ついて調べ、報告文にまとめるという言語活動のイメージをもたせ、作成したものを友達と読み合うという学習の見通しがもてるようにする。

第二次では、教材文において要点や段落相互の関係を確かめながら内容をとらえるとともに、事例の示し方や接続語の使い方など、表現の工夫を視点とした読み取りを行っていく。さらに、読み取った筆者の工夫について自分の考えを書く活動を重ねていき、表現の工夫の効果を意識付けさせ、単元を通した言語活動へとつなげていきたい。

第三次では、自分の調べたい食べ物が、工夫によってどんな食品にすがたをかえているのか、例を挙げて説明する文章を書いていく。その際、準備した図書資料をもとにする。第二次で読み取った文章構成や事例の示し方、接続語の使い方などを生かして、読み手を意識して書かせる。また、書いた後は児童同士で互いに観点に沿って表現されているかを交流しながら確かめる方法を取り入れ、推敲へとつなげていきたい。

### (3) 指導にあたって

#### ① 主体的な学習を展開するために

本単元は、「書くこと」の指導事項と「読むこと」の指導事項とを関連付けることにより、効果的な指導を行うことを意図したものである。その際、学習の過程が児童自身にとっての課題解決の過程となるように言語活動を位置づけている。具体的には、すがたをかえる食品についての報告文を書くために、教材文を通して筆者の書きぶりや表現の工夫について学んでいくことになり、「書こうとすることを明確に」することにつながっていく。また、報告する文章を書くという目的意識を明確にもつことで、その目的に応じた「中心となる語や文」を一層主体的にとらえて読むことができるようにしたい。

#### ② 確かな読みを保障するために

常にゴールとなる言語活動を意識させて、読む活動を行っていきたい。文末表現や重要語句、指示語、接続語のはたらきなど、既習事項を手がかりに中心文を見つけ、段落相互の関係をとらえさせ、大豆が食品にすがたをかえる方法を読み取ることができるようにする。自ら必要な情報を読み取ろうとする目的意識をもち、題名や各段落の中心となる語句や文から「大豆をおいしく食べる工夫と食品」を正しく読み取らせたい。また、言葉一つ一つを丁寧に調べ解説しながら読み進めるだけではなく、全体の構成や表現の工夫など具体的な「分かりやすい説明のしかた」について、学習を進めていく。身近な大豆のすがたがかわっていく内容に興味をもたせながら、今まで学習してきた教材文と比較させたり、接続語や文末表現、写真などの使い方の具体例を考えさせたりして、分かりやすい説明のしかたについて学ばせるようにしたい。

#### ③ 交流を意欲的に進めるために

本単元では、ペア学習、3～4人で構成するグループ学習を授業の中に取り入れている。自分の考えをもった上で、相手はどう考えたのかを聞き取り読み取り、自分の考えと比べることをねらいとしている。また、自分の考えとの違いも認め、なぜそのように考えたのかも、交流によって理解し合うようにしたい。そのために、自分の考えをもたせる前に書

かせること、小グループでの交流で自信をもたせることに留意しながら進めていきたい。

#### 4 単元の目標

- 文章の内容に関心を持ち、文章構成や表現の工夫を理解しながら読もうとする。  
【関心・意欲・態度】
- ◎ 書く目的によって必要となる事項と観点を理解し、適切な事例を挙げて説明する文章を書くことができる。  
【書く ウ】
- ◎ 中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら、文章の内容と事例の取り上げ方を理解することができる。  
【読む イ】
- 接続語を適切に使って文を書くことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

#### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・文章の内容に関心を持ち、文章構成や表現の工夫を理解しながら読もうとしている。	・書く目的によって必要となる事項と観点を理解し、適切な事例を挙げて説明する文を書いている。(ウ)	・中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、文章の内容と事例の取り上げ方を理解している。(イ)	・接続語を適切に使って文を書いている。(イ(ク))

#### 6 単元の指導と評価計画 (全 13 時間)

次	時	学 習 活 動	評 価
第一 次	1	○「食べ物のひみつを教えます」を読み、調べたい食べ物を複数決め、どんなことを調べるか見通しをもつ。 ・すがたをかえた食品をクイズ形式で紹介し、すがたをかえる食べ物について話し合う。 ・「食べ物のひみつを教えます」を読み、学習の見通しをもつ。	【関】興味をもった食べ物について調べ、説明文を書くための見通しを立てようとしている。 【発言】
	2	○学習課題「へんしん食べ物ブックを作ろう」を設定し、学習計画を立てる。 ・教師が作成したモデルを提示し、書き方の大体の流れをつかむ。 ①何に、どうやって変身したのかを調べよう。 ②調べたことをわかりやすくまとめよう。 ・調べるための目的意識と相手意識をしっかりともつ。	【関】「へんしん食べ物ブック」を作ることに関心を持ち、文章構成を理解しながら読もうとしている。 【発言】 【読】書く目的に必要な事柄を整理している。 【ノート】
第二 次	3	○「すがたをかえる大豆」を読み、文章全体の組み立てをとらえる。 ・題名から、自分なりの文章の組み立てを考える。 ・通読して、内容の大体をとらえる。 ・段落ごとの要点をまとめる。 ・「はじめ」「中」「おわり」に分け、文章全体の組み立てをとらえる。 ・「問い」がないことについて考え、「はじめ」の役割と文章全体の話題をとらえる。	【読】「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに注意して読んでいる。 【ノート・発言】 【読】「問い」について考えることで、話題を適切にとらえ、各段落の内容をまとめている。 【ノート・発言】
	4	○事例や言葉に注意して「中」を詳しく読み、書かれている内容を考える。 ・大豆のすがたをかえる工夫と、どうやってすがたをかえたのか、その変身の過程(手順)を読み取る。	【読】「事例」に書かれてある「工夫」と「食品」の例示を整理しながら読んでいる。 【ノート・発言】

	5 本時	○事例がどのような順で書かれているかなど、筆者の説明の工夫について考える。 ・接続語に着目させ、段落の順序を確かめさせたり、具体例を整理させたりする。 ・事例の説明の順序を考える。 ・説明の仕方について自分なりにまとめる。	読 事例の順序に着目して、「中」の説明に仕方の工夫に気付き、自分の考えをまとめている。 【ノート・発言】
	6	○説明文の分かりやすい書き方についてまとめる。 ・文章構成・事例を挙げる順序・接続語の使い方について、どう工夫するのが分かりやすいか整理する。 ・写真の使い方について考える。 ・分かりやすい書き方について自分なりにまとめる。 ・書いたことを発表し合う。	読 写真の役割について考えながら読んでいる。 【ノート・発言】 読 文章構成・接続詞の使い方・事例の挙げ方について考えたことをまとめている。 【ノート・発言】
第三 次	7	○選んだ食べ物について、調べる。 ・選んだ食べ物について調べたことを書く。 ・選んだ食べ物がどのようにして食品に変化するか、観点に沿ってカードにメモする。	関 食べ物に関心をもち、進んで調べようとしている。 【ワークシート】
	8	○全体の構成を考え、「はじめ」「おわり」の文章を書く。 ・学んだ説明の仕方の工夫を振り返り、説明する文章を書くために大切なことを確認する。 ・「はじめ」「おわり」の文章を書く。	書 学んだ説明の仕方の工夫を生かして、「はじめ」と「おわり」の文章を書いている。 【ワークシート】
	9 ・ 10	○考えた構成をもとに、教材文から見つけた書きぶりを生かして、「中」の文案を作る。 ・学んだ説明の仕方の工夫を振り返り、「中」の文章を書くために大切なことを確認する。 ・「中」の文案を作る。 ・書いた文をペアで読み合う。	書 目的に応じて事例を挙げて書いている。 【ワークシート】 言 接続語の役割を理解し、使うことができる。 【ワークシート】
	11	○友達と報告文を読み合っって相互評価し、必要な箇所は書き直す。 ・下書きした文章を読み返し、推敲する。 ・書いた文をグループで読み合う。	書 文章の間違いを正したり、よい表現に書き直したりしている。 【ワークシート】
	12	○絵と対応させながら、下書きした文章を清書する。 ・下書きをもとに清書する。 ・絵も文章に合わせて貼り付ける。 ・声に出して読む。	言 書きたいことが明確に伝わるよう、事例と絵を関連付けて報告文を書いている。 【ブック】
	13	○書いたものを互いに読み合い、感想を交流する。 ・作品を読み合い、交流する。 ・単元の学習を振り返る。	書 互いに書き方を比べ、上手に説明しているところに気付いている。 【発言・ノート】 言 接続語の役割を理解して、適切な言葉を用いて表現している。 【文章】

## 7 本時の指導

### (1) 目標

事例の順序に着目して、「中」の説明の仕方の工夫に気付き、自分の考えをまとめることができる。

### (2) 展開

段階	学習内容と活動 ◇発問 ・予想される児童の反応	○支援 ・留意事項 ☆評価
つかむ 15分	1 前時の学習内容を想起する。 ◇ 大豆をおいしく食べるために、どんな工夫がありましたか。 ・大豆をその形のままいったり、にたりしてやわらかくおいしくするくふう	・前時は、事例の内容について学習したことを確認する。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こなにひいて食べるくふう</li> <li>・大豆にふくまれる大切なえいようだけを取り出して、ちがう食品にするくふう</li> <li>・目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふう</li> <li>・ダイズのとり入れる時期や育て方のくふう</li> </ul> <p>2 事例が、どんな順序で挙げられているか考える。</p> <p>(1) 既習の教材文から、「中」の順序について考える。</p> <p>◇ 「じどう車くらべ」と「こまを楽しむ」の「中」の順序を替えてみましょう。どう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらも話につながる。</li> <li>・何となく分かりづらい気がする。</li> </ul> <p>(2) 教材文の「中」の順序について考える。</p> <p>◇ 「すがたをかえる大豆」の「中」の段落の順序を替えてみましょう。どのような感じがしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話につながる。</li> <li>・話の内容が整理されていない気がする。</li> </ul> <p>3 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>筆者は伝えたいことを分かりやすく説明するために、「中」をどんな順序で書いているか考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「中」の順序性に目を向けさせる。</li> <li>・ 順序を替えても話の内容がつながることを確認し、順序を意識していくことを伝える。</li> <li>・ 第3時で児童が考えた文章構成シートを活用する。</li> <li>・ 事例の並べ方には、筆者の意図があることを知らせる。</li> <li>・ 学習したことが、自分で説明文を書くときに役立つことを確認する。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ふかめる 25分</p>	<p>4 「中」の段落(③～⑦)を音読する。</p> <p>◇ 筆者は、どのような順序で書いているのか、考えながら音読しましょう。</p> <p>5 「中」の順序について話し合う。</p> <p>◇ 筆者は、どのような順序で書いていると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分かりやすい順</li> <li>・ 大豆の形に近い順</li> <li>・ 作り方の簡単な順</li> </ul> <p>◇ それは、どんな書きぶりから分かりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題名から…</li> <li>・ つなぎ言葉から…</li> <li>・ 説明のしかたから…</li> </ul> <p>(簡単なものから詳しいものへ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段落ごとに音読させる。</li> <li>○ 題名やつなぎ言葉、写真、中心文に着目させる。</li> <li>○ 筆者の書きぶりから根拠を見つけさせる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 筆者は、どうしてこの順序で書いたのだと思いますか。ノートに書いてみましょう。</li> <li>◇ 班で交流しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3～4人で考えを交流し合う。</li> </ul> </li> <li>◇ 班で交流したことを発表しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読者がイメージしやすい。</li> <li>・ かわっていく様子が写真を見てもよく分かる。</li> </ul> </li> </ul> <p>6 説明の仕方について自分なりにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 分かりやすい説明の仕方で大切だと思うことをまとめましょう。</li> </ul> <p>7 自分が選んだ本から事例や写真を見て、構成のイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 自分のブックの「中」の部分を、どんな構成にするか考えてみよう。付箋を貼りましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み手のことを考えて順序を決めることに気付かせたい。</li> </ul> <p>☆ 「中」の段落の説明の仕方の工夫を見つけることができる。 (ノート, 発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3次の活動との関連を図る。</li> <li>・ 必要なところには、付箋を貼り書き込みをさせる。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめる 5分</p>	<p>8 学習を振り返り、自己評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 今日の学習の振り返りを書きましょう。</li> </ul> <p>9 次の時の予告をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 次の時間は、説明文の分かりやすい書き方についてまとめます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習して身についたこと、分かったことについて書かせる。</li> <li>・ 学んだことを発表させ、認め合いたい。</li> </ul>

(3) 板書計画

十月六日(火)

すがたをかえる大豆

国分 牧衛

◇読む人にとってわかりやすく書くには…

- ・ 事例のじゅんじよを考える
- ・ つなぎ言葉をじょうずに使う

教材文

児童が考えた「中」の順序

○ 「中」のじゅんじよ

⑦ 筆者はつたえたいことを分かりやすくせつめいするために、「中」をどんなじゅんじよで書いているか考えよう。